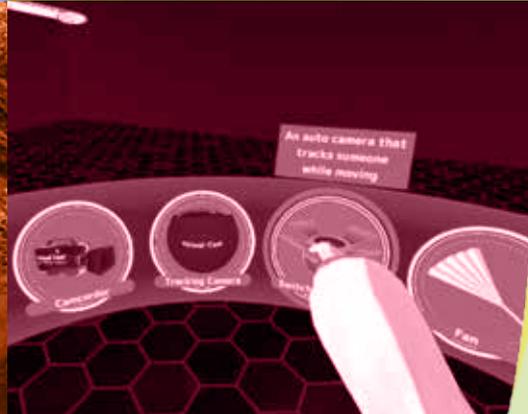


札幌市

ものづくり

支援事業成果事例集



発刊にあたって

人口減少社会を迎えた中、市内企業の人手不足感の高まりや、道内市場のさらなる縮小が予想されるなど、社会経済情勢とともに、市内企業を取り巻く環境も日々変化しております。

そうした状況のなか、札幌市では市内企業の皆様の新技術・新製品開発や製品の高付加価値化、新たなビジネス展開などを支援するため、様々な支援事業を行っております。

この冊子では、平成30年度に支援した14事業を紹介しております。

これらの成果事例を参考にいただき、市内企業の皆様の新たな事業の着想や既存事業の底上げにつなげていただければ幸いです。

CONTENTS

平成30年度 札幌市 ものづくり 支援事業成果事例集

3	平成30年度札幌型ものづくり開発推進事業	
	金型から最先端技術まで、多様な産業を支える	株式会社堀本工作所……………4
	北海道産男爵の冷凍コロッケ	サンマルコ食品株式会社……………5
6	平成30年度 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業	
	健康と美容に、道産食材を	株式会社札幌アンチエイジングラボラトリー……………7
	自然素材で安心の手作り石鹸	株式会社Savon de Siesta ……8
9	平成30年度 札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業	
	コンサルタントから施工まで、設備のトータルサービス	池田煖房工業株式会社 ……10
11	平成30年度 デザイン活用型製品開発支援事業	
	北海道産木材で暮らしに生きるアイテムを	チエモク株式会社……………12
13	平成30年度 観光商材開発支援事業	
	多角的に展開しビジネスの流れを掴む	株式会社アイ・ティ・エス ……14
15	平成30年度 6次産業活性化推進事業	
	家庭でも食べやすい・料理しやすいエゾシカ肉商品	日中物産白糖工場株式会社……………16
17	平成30年度 輸出仕様食品製造支援事業	
	作っても幸せを生み、食べても幸せを生むスイーツを	株式会社よねたや……………18
19	平成30年度 IT利活用促進事業	
	集荷・保管・配送、コーディネートする“ものはこび”	モス物流プランニング株式会社……………20
21	平成30年度 IT産業海外展開支援事業ローカライズ支援補助金	
	ちょっと間違った未来で、幸せな人を増やす	株式会社バーチャルキャスト……………22
23	平成30年度 ITビジネス創出支援事業	
	顧客にピッタリ、満足度の高いシステムを	株式会社プラグイン……………24
25	平成30年度 先進的IT技術実証事業	
	遠隔モニタリングシステムで局所の安全を見守る	エコモット株式会社……………26
27	平成30年度 映像制作助成事業(海外プロモーション映像活用事業助成金)	
	地中の保水技術で、世界中の人々を水害から守りたい	北海道ポラコン株式会社……………28
29	平成30年度 コンテンツ活用促進事業	
	道民に愛される味で売上No.1	北日本フード株式会社……………30
31	平成30年度 テレワーク普及促進事業	
	女性が設計する暮らしの空間	イネスホーム株式会社……………32
34	札幌市のその他支援制度(ものづくり関連)	

平成30年度 札幌型ものづくり開発推進事業

1 目的

札幌市の様々な産業をけん引する「重点分野」及び、札幌市産業全体の底上げが期待される「ものづくり分野」において、札幌市内の中小企業者等が行う新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）の取り組みを支援することによって、札幌市経済の活性化を図ることを目的としています。

2 補助対象者

下記の要件をすべて満たす中小企業者・組合等

- (1) 札幌市内に本社を有していること
- (2) 設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあること
- (3) 事業を実施するための経営資源、人材等を有していること

3 補助対象事業

下記の分野における新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）に関する取り組み

- (1) 食関連分野
- (2) 健康福祉・医療関連分野
- (3) 製造関連分野
- (4) IT関連分野

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額500万円

5 補助件数

6件

（平成30年度採択案件）

- ・業務用冷凍ポテトコロッケの中具用馬鈴薯芋の粗くだき製法の開発（サンマルコ食品株式会社）
- ・テロ等重要警備対策に適応する「寒地型簡易車両侵入阻止柵」の開発（株式会社白石ゴム製作所）
- ・寒冷地対応簡易設置型水位観測・撮像装置の開発（株式会社エルムデータ）
- ・CT-核医学Hybrid型心臓ファントムの開発と事業化（株式会社堀本工作所）
- ・北海道産原料を使用したイタリア職人が手がけるイタリア式生ハム・サラミの製造事業（札幌バルナバフーズ株式会社）
- ・ウェアラブル型非侵襲血中脂質測定装置の開発（メディカルフォトンクス株式会社）

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 旅費
- 報償費
- 原材料・消耗品費
- 人件費^{※1}
- 通信・運搬費
- 機器リース費
- 機器購入費^{※2}
- 施設及び設備等賃借料
- 外注費（調査・分析・加工等）
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

※1 人件費については補助額の1/2以内かつ500万円を限度とする
（ただし、IT関連分野のみ2/3以内かつ650万円を限度とする）

※2 機器購入費については対象経費の2/3以内かつ650万円を限度とする

7 募集期間

平成30年4月10日～5月14日

8 申請の受付・問い合わせ

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団） クラスター事業部

〒001-0021 札幌市北区北21条西12丁目 北海道大学構内 コラボほっかいどう

TEL:011-708-6526 URL:<http://www.noastec.jp>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

金型から最先端技術まで、多様な産業を支える

株式会社堀本工作所

- 所在地／札幌市東区北丘珠5条4丁目4-76
- TEL／011-788-3151 ●FAX／011-788-3152
- 代表者／代表取締役社長 桃井 義弘
- 設立／1969(昭和44)年4月 ●従業員数／16名
- URL／http://www.kk-horimoto.co.jp

キッチンのステンレスシンクから始まり、ストーブや農機具、自動車などの部品を製造するための「型」で業界をリード。緻密な設計力、加工力で最先端の産業技術の土台を固める、「ものづくり」のための“モノ造り”企業である。

CT-核医学Hybrid型心臓ファントムの開発と事業化 ～北海道科学大学との共同研究で、画像診断の世界へ～

なぜ、ファントムが必要なのか

心臓疾患では、原因を突き止めて治療の「的」を絞ることが必要のため、さまざまな検査を行う。例えば、血管や心臓の形を確認できるCT検査では、病気で細くなった血管を見つけ、心筋の健康状態を確認する核医学画像では、栄養や酸素が行き渡らず機能していない心筋を見つける。この2つの画像を合体させることで、「どの血管を治療して、どの心筋を助けるのか」が判断しやすくなるため、画像を合体させる専用ソフトウェアが使用されているが、その精度を確認する術がなく、画像がわずかにずれて合体している可能性があった。医師や技師の経験とスキルで補っていたこの問題を解決して、常に正確な画像を得られるようにするため、北海道科学大学保健医療学部の菊池准教授は、ソフトウェアの精度管理に必要な心臓ファントム(模型)の開発に臨んでいた。そして、精密で正確な型を作る堀本工作所が、製作を担うことになった。

異業種タッグで新しい道を開拓

医療系に初めて取り組んだ堀本工作所では、菊池准教授の頭中に描かれた“ファントム”を読み取るため、何度も打合せや試作を重ねた。さらに、各検査機器に対応する素材を探し、無駄のないフォルムの

ファントムになるよう改良を続けた。

このファントムは、病変模型が仕込まれた心臓部分と血管部分とを組み合わせて使用する。これを、実際の心臓がある胸腔を模した容器にセットして、CTと核医学画像を撮影。ソフトウェアが合体させたファントムの画像と、実際のファントムを比較して「合体」の精度を測定する。

共同研究に取り組んだ両者は共に札幌市内にある。顔を合わせて話し合えることで、言葉では説明しにくいニュアンスを理解し合うことができたからこそ、今回の成功につながったという。産学官連携の大きな成果である。

やりたかった分野に 思い切ってチャレンジできました

3Dプリンターが台頭するこの業界での生き残りを懸けて、医療分野への参入を願っていましたが、莫大な開発費用がかかるため、中小企業には敷居の高い分野です。補助事業に支えられ、今回の開発に携わることができ、とても感謝しています。



代表取締役社長
桃井 義弘



▲日本核医学技術学会の標準化委員も務める
菊池明泰准教授／血管模型とそのCT画像



▲アクリル樹脂製の心臓ファントム



▲設計図のとおり、緻密な加工を施す

サンマルコ食品株式会社

- 所在地／札幌市厚別区厚別東4条1丁目1-48
- TEL／011-897-1711 ●FAX／011-809-2500
- 代表者／代表取締役社長 藤井 幸一
- 設立／1979(昭和54)年12月 ●従業員数／約500名
- URL／<https://www.sanmaruko.co.jp>

使用するジャガイモは100%北海道産。家庭用冷凍食品だけでなく、全国のスーパーやコンビニなどの惣菜コーナーに、店ごとに味をカスタマイズしたコロッケを提供しているほか、コロッケをメインとした直営店も展開。

業務用冷凍ポテトコロッケの中具用馬鈴薯芋の粗くだき製法の開発 ～手作り以上に手作りっぽい、「ごろっ」と食感を求めて～

消費者の好みに合わせて進化する定番商品

家庭での揚げ物が敬遠されがちな昨今でも、日本人のコロッケ好きは変わらない。スーパーの個性が光る惣菜コーナーにおいても、コロッケは重要な誘客アイテムである。売上の約8割が業務用であるサンマルコ食品では、各納品先の要望に応え、時代とともに変化する「お客様の好み」を追って、商品開発を続けている。その中でも長年の課題となっていたのが、ジャガイモの塊をあえて残すコロッケの製造であった。

手作りならば、ジャガイモを粗くだきにすることは非常に簡単だが、工場で大量生産するとなると容易ではない。これまで、何度か試作してみたものの、「ごろっ」とした食感が残らなかった。そこで、新たな視点を得ようと、北海道立総合研究機構食品加工研究センターにアドバイスを求めた。食を科学し、食産業界を技術面から支える同センターに蓄積された知見を活かし、ジャガイモの加工方法を見直した。

新しい製造ラインから誕生する新食感コロッケ

以前は、皮ごと蒸す→皮を除去しながら裏ごし→他の具材と混ぜ合わせる、という工程の間にジャガイモが完全に砕け、大きな塊が残らなかった。そこで、新たに皮剥き機を導入し、皮を剥いてから加熱する

方法に改め、加熱温度や具材の混ぜ時間も調整して、「ごろっ」としたジャガイモが残る粗くだき製法が確立された。食品加工研究センターでは、試作品のジャガイモ断面の評価も行い、従来品や手作り品と比較した「粗くだき」の程度をグラフ化。データを示せることは、営業の助けにもなるという。

既に、海外向けに冷凍コロッケを販売している同社では、今後、さらに輸出量を増やしたいと考えている。今回開発した商品を含め、日本人が大好きなコロッケが、北海道産ジャガイモの美味しさを世界に伝えるアイコンとなるに違いない。

全国の食卓へ、いつも美味しい コロッケをお届けしています

社内だけの取組みで行き詰っていたところ、補助事業に採択されたことにより、他機関の協力を得ることができ、今回のような良好な結果につながりました。金銭的な面だけではない、それ以上の成果を実感しています。



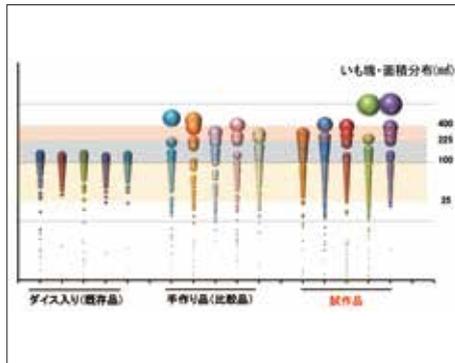
リスクマネジメント本部
部長 久郷 真司



▲男爵がごろっ顔出す新商品



▲皮剥きから選別までの加工ライン



▲コロッケ内の「いも」の大きさを他の製法と比較したグラフ

平成30年度 小規模企業向け製品開発・販路拡大支援事業

1 目的

札幌市内の小規模企業が行う実用化・事業化の可能性が高い新製品・新技術開発や開発の前段階の取り組み(試験、試作、調査等)、後段階の取り組み(販路開拓・拡大)を支援することによって、小規模企業の付加価値向上を促進するとともに、市内ものづくり産業の振興を図ることを目的としています。

2 補助対象者

下記の要件をすべて満たす小規模企業者

- (1) 札幌市内に本社を有していること
- (2) 設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあること
- (3) 事業を実施するための経営資源、人材等を有していること

【小規模企業とは】

業 種	常時使用する従業員
(1) 製造業、建設業、運輸業、 その他の業種((2)を除く)	20人以下
(2) 卸売業、サービス業、小売業	5人以下

3 補助対象事業

「金属・機械」、「食」や「環境・エネルギー」、「健康福祉・医療」、「IT」などの“ものづくり”に関する以下の何れかの取り組み
■ 開発の前段階の取り組み(試験、試作、調査等) ■ 新製品・新技術開発の取り組み
■ 開発の後段階の取り組み(販路開拓・拡大)

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額200万円

5 補助件数

5件程度

(平成30年度採択案件)

- ・チャットツール上のフロー情報をストック情報に変換し活用するためのサービス開発(株式会社調和技研)
- ・駐車場での「車両誤発進対策安全車止め」の製品化事業(株式会社白石ゴム製作所)
- ・超小型モビリティ認定制度対応車両の開発(株式会社Will-E)
- ・労働中の体調管理を目的とした深部体温計試作品のコスト削減(株式会社ケイオス)
- ・都市型屋上養蜂ハチミツを使ったスキンケア製品開発(株式会社Savon de Siesta)
- ・ビーツの機能性を生かした飲料の開発と販売(株式会社札幌アンチエイジングラボラトリー)
- ・水の機能性による葉野菜の成長促進技術開発事業(株式会社レドックステクノロジー)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 人件費*1 ■ 旅費 ■ 原材料・消耗品費 ■ 通信・運搬費 ■ 機器リース費 ■ 機器購入費*2
- 施設及び設備等賃借料 ■ 外注費(調査・分析・加工等) ■ 出展費
- その他本事業の遂行に必要と認められる経費

*1 人件費については補助対象経費総額の1/2以内かつ150万円を限度とする

*2 機器購入費については補助対象経費総額の2/3以内かつ200万円を限度とする

7 募集期間

平成30年5月14日～6月13日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

TEL:011-820-2062 URL:<http://www.sec.or.jp/other/2009.html>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社 札幌アンチエイジングラボラトリー

●所在地／札幌市北区北21条西12丁目2 北大ビジネス・スプリング102
●TEL／011-776-7505 ●FAX／011-776-7539
●代表者／代表取締役 森田 祐二 ●設立／2016(平成28)年1月27日

健康や美容に対するさまざまな効果が期待されているビーツの研究と商品開発を手掛けるほか、アンチエイジング、健康、医療などに関する様々や分野で講演やコンサルティングを行う。

ビーツの機能性を生かした飲料の開発と販売 ～有効成分をまるごと摂取できて飲みやすいビーツジュース～

口に入れやすい風味を求めて

江戸時代に外国から移入したとされるビーツ(赤ビート)は砂糖ダイコンの仲間で、鮮やかな赤色が特徴的。健康に良い食材であることは以前から知られているが、特有の土臭さが敬遠され、加工品への利用は進んでいなかった。藤女子大学では、長年にわたってビーツの機能性について研究し、加工技術の開発を大きく進歩させた。そこで、この研究成果を活用し、ビーツの有効利用を試みた。

商品化への最大の難関は、ビーツに含まれるゲオスミンという臭い成分の対策。この成分をマスキングして「臭いを隠す」手法を確立した。また、ビーツの味や臭いが産地に影響されることも判明し、道内に複数ある生産者を訪ね歩き、風味を確認し、甘味が強く臭みが少ない石狩地方産を選択。加熱温度を厳密に調節したのち、ビーツをまるごと絞ることにより、含有している有効成分を無駄なく摂取できるジュースが完成した。

老化を防ぐスーパーフード

食物繊維やオリゴ糖など健康に良い成分を多く含むビーツ。特に、赤色素のベタレインは、アンチエイジングには不可欠な抗酸化作用や抗糖化作用など、多様な機能性を有する注目の成分である。水溶

性のベタレインは胃と腸からすばやく吸収され、体内で安定して移動することから、アントシアニンなどの他の抗酸化物質よりも有効性が高い。また、硝酸塩の含有量も多く、一酸化窒素の生成が促進されて血管が拡張することにより、血流量が増加し、運動パフォーマンスが向上するとされている。

札幌市内で販売を予定している札幌アンチエイジングラボラトリーの商品は、1本(80ml)に道産ビーツ約1個分のジュースと若干の酸味料だけが入っており、保存料等は無添加。今後、成分分析や臨床試験などの科学的エビデンスが蓄積されれば、機能性表示食品としての販売も期待できる。

海外からも高い関心を集める道産食材、 もっと活用したい

材料探しや機器の購入、展示会への出展など、製品開発と販路開拓には多くの資金が必要です。要となるマスキング手法の開発が大きく前進し、商品化を進めることができたのも、この補助金のおかげです。



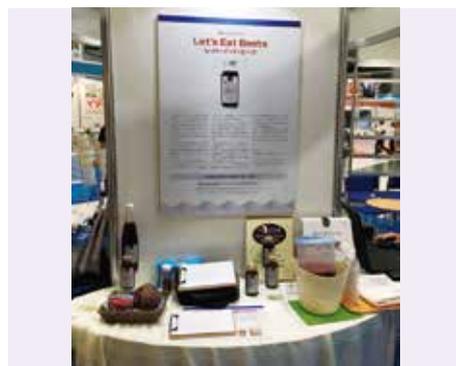
代表取締役/医師
森田 祐二



▲ベタレイン色素の赤が鮮やかなビーツ



▲根菜特有の風味はわずかで、とうきびのような甘味



▲アンチエイジングフェアJapan2018に出展

自然素材で安心の手作り石鹸

株式会社 Savon de Siesta

- 所在地／札幌市中央区南1条西12丁目4-182 ASビル2階
- TEL／011-206-1580 ●FAX／011-206-1581
- 代表者／代表取締役社長 附柴 彩子
- 設立／2011(平成23)年8月1日 ●従業員数／16名
- URL／<https://at-siesta.com>

肌が弱い方でも毎日安心して使える手作り石鹸の製造・販売。北海道の植物から得たエッセンスを使用するなど、自然の恵みを活かした製品開発を行う。工場併設のショップでは、スキンケア商品や雑貨なども販売している。

都市型屋上養蜂ハチミツを使ったスキンケア製品開発 ～地産地消で新たな魅力を発見～

地元の素材と地域の連携

石鹸の泡立ちを良くしたり、肌を保湿したりする効果があるハチミツは、石鹸の素材としてもお馴染みの材料。SAVON de SIESTAにも、以前から道産のハチミツを使用した製品はあったが、「出来る限り地元産の材料を使うこと」を理念としていることから、札幌産のハチミツを使用した石鹸「札花蜜(さっかみつ)」を開発した。

大通近郊のとあるビルの屋上に設置された巣箱から採取したハチミツを使った札花蜜は、2017年度、直営店限定で約800個を販売。徐々に生産量を増やそうとしていた矢先、このビルでの養蜂が中止となってしまった。そこで、新たな仕入先を探した結果、市立札幌大通高等学校のハチミツに出会う。同校のハチミツは、タンポポ、ライラック、バラなどいろいろな花から蜜を集めた「百花蜜」。(一社)日本はちみつマイスター協会が主催する第4回ハニー・オブ・ザ・イヤー(2018年)で最優秀賞を獲得し、“日本で一番おいしいハチミツ”の座に輝いている。

新たな個性が広がる

原料の変更に伴い、パッケージやリーフレットも一新。これまでのパッケージは、たくさんのメッセージを詰めた凝った仕様になっていたため、梱包に手間が

かかり、生産性が悪かった。今回は、社員が意見を出し合い、じっくりと時間をかけてコンセプトをまとめた結果、これまでにない発想の「ごくシンプル」な仕上りに。ユニセックスなデザインで、男性ユーザーの獲得にもつながりそうだ。

この新しくなった札花蜜™は、2019年7月、直営店限定商品として販売開始予定。ハチミツに関連した雑貨などとセットにしたギフトボックス、蜂の飛行ルートに合わせたお散歩マップの作成など、いろいろな展開も考えられている。また、大通高校との連携事業で、ハチミツのさまざまな活用方法も検討されており、地域活性化という点からも注目を集めそうだ。

ミツバチが見る札幌、 花と緑が増えるといいですね

原材料費や機器購入費のほかにも、人件費などのものづくりに必要な経費が幅広くカバーされ、定期的な報告会による事業の進捗状況の確認なども行われるので、製品開発にはとても効果的で、使いやすい補助制度でした。



取締役会長
附柴 裕之



▲直営ショップの奥にある製造室



▲札花蜜のパッケージ。右が現行デザイン、左が新デザイン



▲ときめきが優しく刺激されるような仕掛けも

平成30年度 札幌型環境・エネルギー技術開発支援事業

1 目的

積雪寒冷地でありながら190万人以上の人口を有する札幌市の特色を活かした環境・エネルギー関連産業の活性化を目的としています。

2 補助対象者

- ・市内企業
- ・市内企業等を代表とした市内外企業や大学等研究機関とのコンソーシアム

3 補助対象事業

環境・エネルギー分野（省エネルギー、創エネルギー、蓄エネルギー、エネルギーマネジメント及びそれらを組み合わせ合わせたもの）における製品・技術・システムの開発及び実証実験の取り組み

4 補助金額

【技術開発支援】補助対象経費の2/3以内、上限額1,000万円

【販路開拓・拡大支援】補助対象経費の2/3以内、上限100万円（※市内企業に限る）

5 補助件数

7件程度（技術開発5件、販路開拓・拡大2件）

（平成30年度 技術開発支援採択案件）

- ・遠方監視装置とエネルギーマネジメントを融合したシステム「ikedeco control」の商品化（池田煖房工業株式会社）
- ・PSTレーやPPフィルム等の廃プラスチックをペレット化する低価格・低電力ペレタイザーの開発（株式会社エルコム）
- ・水素吸蔵合金を利用するビニールハウス側面窓自動開閉装置の開発および実証試験（（コンソーシアム）越浦パイプ株式会社・東光電機工業株式会社）
- ・ヒートクラスター型地中熱ヒートポンプと太陽熱集熱器のハイブリッド熱供給システムの開発（株式会社東日本計装）
- ・高効率木質バイオマスガス化炉の開発による安価・安定的水素製造技術の確立（北海道電力株式会社）
- ・凍結防止材（顆粒状）を使用した、熱源に頼らない防積雪装置の開発（北海道ポラコン株式会社）

※販路開拓・拡大支援は、採択なし

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 旅費 ■報償費 ■原材料・消耗品費 ■人件費*1 ■通信・運搬費 ■機器装置等購入費*2
- 機器装置等賃借料 ■外注費（調査・分析・加工等） ■その他本事業の遂行に必要と認められる経費

*1 人件費については補助対象経費総額の1/3以内かつ500万円を限度とする

*2 機器装置等購入費については補助対象経費総額の1/3以内かつ500万円を限度とする

7 募集期間

平成30年5月1日～6月8日

8 申請の受付・問い合わせ

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）クラスター事業部

〒001-0021 札幌市北区北21条西12丁目 北海道大学構内 コラボほっかいどう

TEL:011-708-6526 URL:<http://www.noastec.jp>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

池田煖房工業株式会社

- 所在地／札幌市北区北12条西3丁目1-10
- TEL／011-726-1151 ●FAX／011-726-1158
- 代表者／代表取締役社長 池田 薫
- 設立／1930年(昭和5年)1月 ●従業員数／180名
- URL／http://www.ikedan.co.jp

公共施設、商業施設、温泉施設などで、冷暖房、空調、給湯、給排水などの設備を担う老舗企業。厳格化する省エネ基準にもきめ細やかに対応するコンサルティング力と技術力で、多くの企業から高い信頼を得る。

遠方監視装置とエネルギー管理を融合したシステム 「ikedan-eco control」の商品化 ～多様な設備の省エネ効果、一つにまとめて「見える化」する～

省エネに対するモチベーションを後押し

経済産業省の省エネ補助金の一つに「エネマネ事業」がある。これは、(一社)環境共創イニシアチブに登録されているエネマネ事業者から「エネルギー管理支援サービス」を受ける企業等が対象となる。池田煖房工業(以下、池煖)は、このエネマネ事業者として、より高度なエネルギー管理システム(EMS)を提供するため、新システム「ikedan-eco control」を開発した。

例えば、商業施設の中には、冷暖房設備、給湯設備、ロードヒーティングなどの設備があり、それぞれが電気、ガス、重油などいろいろなエネルギー源を使用する。部屋ごと、設備ごとの稼働状況やエネルギー消費は、商業施設のオーナー企業と施設内の監視室、池煖でモニタリングすることができる(遠方監視装置)。エネルギー使用量は原油換算やCO₂換算することもでき、グラフなどのデータで、日・月・年毎の詳細な使用量変化を確認。池煖では、このデータを解析して、省エネポイント等のアドバイスをする。

クライアントも環境も“負荷”軽減

「ikedan-eco control」は、汎用設備を組み合わせて使用し、データ収集を専用アプリで行う。そのため、互換性のない各設備の通信機能を統合するこ

とに苦労を要したが、カスタマイズが簡単で、低コストで導入できるシステムを実現した。

大規模施設は特に導入効果が高いことから、改修工事などに合わせて利用を勧める予定だ。EMSの導入にはかなりの費用がかかるが、省エネ補助金の利用により企業負担は軽減でき、さらに、導入後には電気代や燃料費などが大幅に削減できるので、費用対効果も非常に大きい。

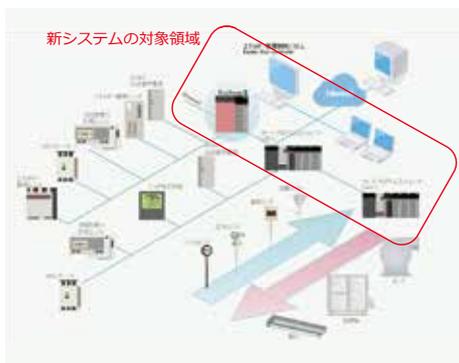
エネルギー対策の進歩は著しく、新しい省エネ製品が次々と誕生している。これらの商品を上手に使って一体的にエネルギーの流れを追跡し、環境負荷を減少させることがEMSの根幹である。

費用対効果の 大きな省エネシステムを設計

この補助金の利用は今回で2度目になります。民間企業では、研究開発費の確保が難しい現状にありますが、補助金を活用することで大きな事業にも取り組みやすく、とても良い支援だと思います。



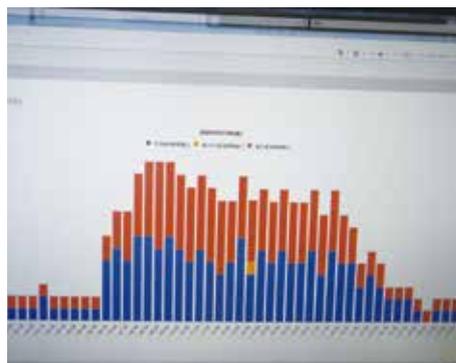
技術統括部
ソリューション事業部
課長 中村 瑞樹



▲全体の概念図



▲データ収集用の端末装置



▲エネルギー種別を色分けし、30分毎の使用量をグラフ化

平成30年度 デザイン活用型製品開発支援事業

1 目的

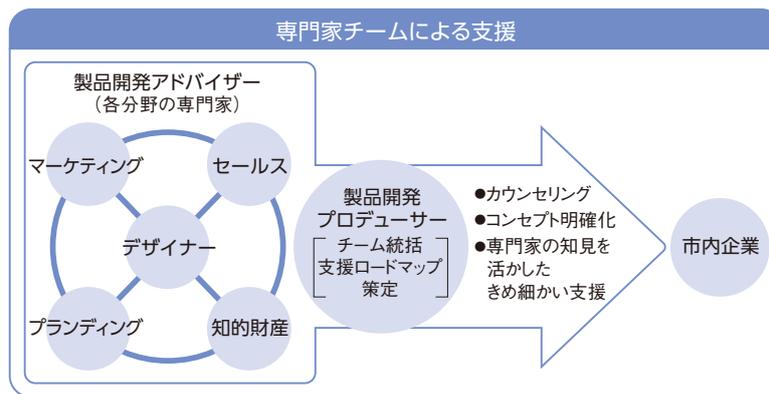
新製品開発や新事業展開を目指す意欲のある市内中小企業に対して、「製品開発プロデューサー」及びマーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である「製品開発アドバイザー」により構成される支援チームを派遣し、製品開発におけるプロセスの入口から出口まで一貫した支援を行うことで、市内製造業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 支援対象者

- 札幌市内に本社を有し、製造業等を営む中小企業者で、市が定める要件を満たすもの
- ・具体的な商品アイデア又は試作品を有すること
 - ・事業を推進するにあたり、デザイン・試作・営業・販売促進費用等の実費負担が可能であること
 - ・完成した製品の新たな市場参入等の成長意欲を有すること など

3 支援内容

製品開発プロデューサーが具体的な支援計画を策定するとともに、マーケティング、セールス、ブランディング、デザイン、知的財産等の各分野の専門家である製品開発アドバイザー（上記目的と同じ）を企業の相談内容に応じて選定し、支援チームを結成して企業の製品開発、新事業展開の取組を支援します。



4 支援件数

- 3件程度
(平成30年度採択案件)
- ・システムキッチンのリニューアル(株式会社樋口)
 - ・紙箱メーカーが製作した紙製収納雑貨製品のブラッシュアップや新製品の開発(モリタ株式会社)
 - ・木製品のオリジナル製品ラインナップ見直しと、新ブランドの構築(チエモク株式会社)

5 支援対象経費

- ・専門家チームによる製品開発支援(支援計画策定、専門家派遣8回程度)、試作(一部)・・・ 無料
- ・デザイン・試作・営業・販売促進費用等の経費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 企業負担

6 募集期間

平成30年5月15日～7月31日

7 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号 札幌市産業振興センター
TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp/other/782.html>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

チエモク株式会社

- 所在地／札幌市西区小別沢140
- TEL／011-790-7012 ●FAX／011-790-7013
- 代表者／代表取締役 三島 千枝
- 設立／2008(平成20)年11月 ●従業員数／8名
- URL／<https://www.chiemoku.co.jp>

札幌スタイル認証製品「黑板消しストラップ」などが人気の工房。油や水分、着色などの汚れに強く、長期に渡って効果が持続するガラスコートで仕上げた食器など、デザイン性だけでなく実用性も高い商品を製作。

日常使いのシンプルな木製器を基軸とした新ブランドの構築 ～毎日使いたい、長く愛用したい木製食器～

想いを込めた基幹商品を

小別沢の木立に佇む木製クラフトの工房「チエモク」。OEMも手掛けてきたが、ここ数年、オリジナル商品の食器・カトラリーの売上が伸びている。下川町産のハンノキとシラカバを使用した赤ちゃん向け食器「もりのともだち」シリーズは、持ちやすい、ひっくり返りにくいなど、乳幼児が自分で食べるときはもちろん、離乳食を食べさせるお母さんにも使いやすい食器。かわいらしさと工夫があふれた商品で、ギフトとして人気がある。そこから、大人になっても暮らしの中に「木」の温かみを感じてほしいと願い、新しいブランドを構築することになった。

デザイナー×木工職人

「日常使いの木のうつわでプレミアムな暮らしを」をテーマに今回の補助事業を活用した同工房には、製品開発アドバイザーとして、高橋尚基氏(工業デザイナー/商品開発コンサルタント)、柏崎直人氏(コピーライター)、山村真一氏(工業デザイナー/株式会社コボ代表取締役社長)が派遣された。新製品開発のため、チエモクの理念や特徴、開発テーマといった抽象的な概念を具体的な「もの」の形に落とし込むため、定期的なミーティングが行われ、使い勝手や新しさ、使う人の気持ちをちょっと豊かにする心

地良さ、などさまざまな視点からブレインストーミングと試作を繰り返した。最終デザインのうつわを手で包むと、その曲線が手によく馴染み、「あれもいいな、これにもいいな」と食べたい物がいろいろと浮かんでくる。

また、もののデザインと並行して、販売戦略やブランドのテーマを表現するコミュニケーションツールの策定も行った。長年の夢だった“木々に囲まれた工房”を叶えてくれたこの土地に感謝し、「小別沢」の雰囲気や地名も取り入れたロゴを検討した。

木製食器の新シリーズは、製造開始にあたり、クラウドファンディングが活用される予定。たくさんのファンに支えられてデビューする、その日が待ち遠しい。

毎日使ってほしいから、 デザインや使い勝手にもこだわりたいです

この補助事業ではデザイナーなどのアドバイザーを派遣してもらえるので、費用のことを気にせずに安心していろいろ相談でき、とても愛着の持てるデザインが生まれました。アドバイザーのみなさん、ありがとうございます。



代表取締役
三島 千枝



▲うつわが生まれる工房



▲「もりのともだち」のうつわ



▲たくさんのキーワードが集まったブレインストーミング

平成30年度 観光商材開発支援事業

1 目的

市内企業の外国人観光客向け商品開発に係る経費の一部を補助することにより、外国人観光客による消費拡大を促し、市内企業の販路拡大等につなげることを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社(本所)を有する外国人向け観光商材(※)の製造者となる中小企業。または札幌市内に本社(本所)を有する、観光商材の企画・販売者となる企業(大企業を含む)。ただし、企画・販売者は北海道内に本社(本所)を有する中小企業に対して観光商材を委託製造させること。

※「観光商材」とは、外国人観光客を対象とした、商品(食品、雑貨・工芸品、土産品等)とする。

3 補助対象事業

外国人観光客への販売拡大を図るため、観光商材の開発を行い、流通させる事業

4 補助内容

補助対象経費の1/2以内、上限額100万円を補助。

【北海道大学・北洋銀行との産学官金連携により、商品開発や販路開拓への支援を実施】

- ・開発期間中に、外国人の嗜好等の調査を目的とした留学生によるアンケート。
- ・商品のブラッシュアップを図るため、開発商品の専門家個別相談会。
- ・新商品の販路開拓支援として、「第25回グルメアンドダイニングスタイルショー春2019」に共同出展。

5 補助件数

7件

(平成30年度採択案件)

- 雑貨等・北海道産牛乳原料を配合した化粧品の開発(株式会社小六)
- 食品・北大ガゴメ昆布を使用したインバウンド向けオーガニックキャンディーの開発(株式会社アイ・ティ・エス)
 - ・北海道産黒豆を使った黒豆茶のお土産開発(池田食品株式会社)
 - ・「札幌発の日本酒」とお土産用パッケージ開発(株式会社Kカンパニー)
 - ・残さず食べる食べるを残す「北海道乾燥野菜プロジェクト」次世代に食べるをつなげます。(株式会社のこたべ)
 - ・さっぽろ限定幻のイチゴ、さとほろを使用したかりんとう開発と販売(浜塚製菓株式会社)
 - ・鮭トバダイスカット販売促進(丸本本間水産株式会社)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■ 機器費 ■ 検査・認証費 ■ マーケティング活動費 ■ 旅費
- その他市長が適当と認める経費

7 募集期間

平成30年6月1日～6月29日

8 申請の受付・問い合わせ

経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

TEL:011-211-2481 FAX:011-218-5130

URL:<http://www.city.sapporo.jp/keizai/tradeinfo/kankoshozai/kankoshozai.html>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

株式会社アイ・ティ・エス

- 所在地／札幌市東区北23条東15丁目5-25 ノーヴル23 2F
- TEL／011-743-1707 ●FAX／011-743-1708
- 代表者／代表取締役社長 下川 俊克
- 設立／1997(平成9)年5月20日 ●従業員数／15名
- URL／<http://www.it-systems.co.jp>

建設コンサルタント、建設情報サービス、カルチャースクール運営など複数の分野に事業を展開。カルチャースクールで開催している介護予防プログラムは、江別市の地域介護予防活動モデル団体支援事業に選定されている。

北大ガゴメ昆布を使用したインバウンド向け オーガニックキャンディーの開発 ～異業種からの参入、新しい北海道土産の開発に挑む～

特別な素材で、お馴染みの食品を

がごめ昆布に含まれるフコイダンには、免疫力を高めて風邪などを予防するほか、さまざまな健康効果が発見されており、近年、研究が進んでいる。北大ガゴメ[®]は、北海道大学水産科学研究院が開発した独自の方法で養殖されるがごめ昆布である。

アイ・ティ・エスの下川氏は元システムエンジニア。建設土木分野で活躍する大学の先輩からの紹介で、北大ガゴメ[®]による地域活性化プロジェクトを知り、この素材を使用した商品開発に携わることになった。食・観光分野に関しては素人だった下川氏が、「商品化して売れるのだろうか」と悩んでいたところ、アドバイザーの支援も受けられるこの支援事業を知る。「第三者が商品化の価値を認めてくれるなら、やってみよう」と決意し、北大ガゴメ[®]を使用した飴の開発に着手した。

幾多のハードルを乗り越えて

始めてみると、未知のことばかりで何一つ予定通りに進まなかった。コンブ粉末の含有量、内容量、値段の決定、大きすぎる生産ロット、必要なJANコードなど、次から次へと現れる関門。それでも、周囲の助けやアドバイザーの知識を借りて、「北大がごめ昆布飴」は完成した。昆布の風味が甘さを包み、さっぱり

とした後味に仕上がっている。ゆっくり舐めると「がごめ昆布」らしいとろみも感じられ、留学生フェアでの試食会でも好評だった。昆布をデフォルメしたパッケージも自信作。

1袋50g入り550円(税抜)で、まずは北海道大学エルムの森ショップでの販売を予定。商談の機会を得るため、東京で開催されたグルメ&ダイニングスタイルショーにも出展した。今後は、インターネットなどを駆使したデジタル戦略と、土産物店や観光施設などを一店一店回って営業するアナログ戦略で販路開拓に挑む。飴を通じて、北海道での旅を元気に楽しんでほしいという思いも広まるだろう。

いろいろな方々からのご協力に 感謝でいっぱいです

補助金というきっかけがなければ、この事業には着手していなかったと思います。アドバイザーの派遣や東京のBtoB展示会への参加など、開発から販売までトータルに支援してもらって、ここまで来ることができました。



代表取締役副社長
下川 紘資



▲素材の情報もしっかり伝える



▲完成した“北大がごめ昆布飴”



▲留学生フェアでの試食会

平成30年度 6次産業活性化推進事業

1 目的

北海道の農水畜産資源の高付加価値化を促進するとともに、食関連産業の振興、及び北海道経済の活性化を図ることを目的としています。

2 補助対象者

北海道内の1次産業者と、札幌市内の2次、3次産業者によるコンソーシアム
(1次産業者と2次産業者のみ、1次産業者と3次産業者のみの組み合わせも可とします。)

3 補助対象事業

北海道内の1次産業者と、札幌市内の2次、3次産業者が対等な関係で連携し、北海道の農水畜産物資源を活用した食品の新商品開発を行う事業

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額400万円

5 補助件数

4件 ※①:1次産業者、②:2次産業者、③:3次産業者、◎:コンソーシアム代表者

・食機能が低下した高齢者等にも食べる喜びを与える余市産果実を使用した“やわらか素材デザート・サラダ”の開発
【①山本果樹園株式会社(余市町)、②③株式会社北武フーズ(札幌市)◎】

・北海道産さつまいも普及を目的とした加工品開発

【①有限会社貞広農場(美唄市)、①有限会社余湖農園(札幌市)、③株式会社フーズアンドブレッド(札幌市)◎】

・札幌伝統野菜「札幌黄」と北海道野菜を利用した札幌名物「えぞ鹿まん」の開発

【①中村一哉(釧路市)、③日中物産白糖工場株式会社(札幌市)◎】

・北海道十勝鹿追町産生乳を100%使用した無添加スティックタイプアイスクリーム開発

【①農事組合生産法人東瓜幕協和生産組合(鹿追町)、②③株式会社風景(鹿追町)◎、③株式会社BUNS(札幌市)】

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

■人件費*1 ■報償費 ■原材料費 ■消耗品費 ■通信・運搬費 ■機器リース費

■機器購入費*2 ■施設及び設備等賃借料 ■外注費 ■旅費・交通費

■マーケティング調査費 ■その他の経費

※1 人件費は補助額の1/2以内かつ200万円以下とする

※2 機器購入費は50万円までを対象とする

7 募集期間

平成30年4月23日～6月25日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号

TEL:011-820-2062 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

日中物産白糠工場株式会社

- 所在地／札幌市中央区南4条西9丁目1006-8 パワービル南4条3階
- TEL／011-211-5737 ●FAX／011-211-5738
- 代表者／代表取締役 呉 奇
- 設立／1994(平成6)年5月 ●従業員数／4名
- URL／http://jc-products.jp

白糠町にある自社のHACCP認証工場で、エゾシカの解体から肉の加工までを行い、一部の商品是中国でも販売。抜群の味覚とアイデアで多様な商品開発に臨み、害獣駆除されるエゾシカの有効活用に貢献している。

札幌伝統野菜「札幌黄」と 北海道産野菜を利用した札幌名物「えぞ鹿まん」の開発 ～エゾシカ肉をもっと身近に～

本当の「普及」とは何か

数年前から、巷ではジビエブームで、エゾシカ肉の普及も促進されていると言われてきたが、私たちは普段、どのくらいエゾシカ肉を食べているだろうか?以前から、いろいろなエゾシカ肉商品を開発してきた日中物産では、「家庭で食べない」のなら普及しているとは言えないのではないかと考え、コンビニなどで気軽に購入できたり、自宅で簡単に食べることができる商品が必要だと感じた。そこで、蒸しても、揚げても美味しい「鹿まん」を作ってみたところ、イベントなどで大好評となったため、さらなる普及を目指して、「札幌黄」による付加価値創出に取り組んだ。

札幌伝統野菜に位置づけられるタマネギ「札幌黄」は、軟らかさと強い甘味を特徴とする。最近では乾燥品も生産され、食品加工の分野でも使いやすくなった。同社では、乾燥と生の札幌黄を絶妙なバランスでエゾシカ肉と混ぜ合わせ、プレーン、しょう油南蛮、味噌、カレーと4種の「えぞ鹿まん」を誕生させた。

たくさんの人に、たくさん食べてもらいたいから

北海道産材料を使用することや味への徹底したこだわりにより、朝食に、おやつに、お酒のおつまみに、いろいろなシーンで楽しめる品となっている。しょう油南蛮味の皮にはハウレンソウが練りこまれ、

味噌味にはカボチャ、カレー味にはニンジンと、中具と皮の味や、その組合せに、呉社長の味覚と料理の腕がいかんなく発揮され、栄養バランスへの配慮も感じられる。

エゾシカ肉は、高タンパク、高鉄分で低カロリー、低脂肪、さらに非アレルギーであり、成長期の子ども、食が細くなった高齢者、ダイエット中の人などに特に勧めの食材だ。自宅で食べやすい加工品の普及により、スーパーやコンビニで手軽に購入できる、北海道の新たな郷土料理となることが期待されている。

エゾシカ肉が 家庭の食卓に広まりますように

販路開拓や人脈づくりに不安もありましたが、今回の補助事業に採択されたことをきっかけに、展示会などに出席する機会にも恵まれ、たくさんの方々を試食していただくことができました。経費面以外でも、とても有益でした。



代表取締役
呉 奇



▲札幌黄の使い方にも、風味や食感を活かす工夫が



▲生地も手作りで、試作を繰り返した



▲(一社)北海道食品産業協議会主催のBtoB展示会に出展

平成30年度 輸出仕様食品製造支援事業

1 目的

輸出向け食品の開発を促進し、海外における道産食品の販路拡大を図ることを目的としています。

2 補助対象者

- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の製造者となる中小企業
- ・札幌市内に本社(本所)を有する輸出仕様食品の販売者となる企業(大企業を含む)または協同組合

3 補助対象事業

輸出向け食品を開発して海外に流通させる事業

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

10件

- ・ベトナム市場対応マーケティング重視型ローカライズ商品の開発事業(株式会社イークラフトマン)
- ・ASEAN・東アジア向けサプリメントブランドの構築(株式会社北国生活社)
- ・道産清酒中国輸出促進事業(クール北海道株式会社)
- ・北海道小麦(全粒粉)パスタ・冷凍生湯葉(自然解凍)刺身湯葉、無添加で長期チルド保存可能な生湯葉(汲み上げ湯葉)のオリジナル製品化と海外展開(株式会社小山製麩所)
- ・海外向けおむすびとだんごの開発と販売活動(株式会社札幌)
- ・輸出用北海道米ギフトの開発プロジェクト(株式会社千野米穀店)
- ・アジア地域進出に伴うアイスクリーム輸出事業(株式会社長沼あいす)
- ・動物由来原料を一切使用しないにも関わらず本格札幌ラーメンが簡単に家庭でも味わえる
個食対応のスープ付西山生ラーメン(西山製麺株式会社)
- ・海外仕様の粉末MISO SOUP(株式会社北海大和)
- ・「幸せカタラーナ」「幸せ生チョコレート」の東南アジア向け販路拡大プロジェクト(株式会社よねたや)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 製造費 ■機器費 ■輸出関係費 ■海外マーケティング費 ■旅費
- その他本事業の遂行に必要なと認められる経費

7 募集期間

平成30年4月9日～5月16日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 販路拡大支援部
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号
TEL:011-817-7890 FAX:011-815-9321 URL:<http://www.sec.or.jp>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

作っても幸せを生み、食べても幸せを生むスイーツを

株式会社よねたや

- 所在地／札幌市北区拓北6条2丁目7-14
- TEL／011-788-2882 ●FAX／050-3156-1271
- 代表者／代表取締役 米田 靖英
- 設立／2007(平成19)年7月 ●従業員数／36名
- URL／<http://www.yonetaya.co.jp>

就労継続支援A型事業所としてスイーツ専門店SWEETS PEACESを運営するほか、児童発達支援・放課後等デイサービス事業や、企業主導型保育事業を行うなど、地域の福祉に重点を置いたビジネスモデルを展開。

「幸せカタラーナ」「幸せ生チョコレート」の 東南アジア向け販路拡大プロジェクト ～実直な戦略で、少しずつファンを増やす～

何度も足を運んで、まずは味を知ってもらおう

平成29年度に同補助金を受け、主力商品「幸せカタラーナ/プレーン」の英語版パッケージを作成したことで、シンガポールでの販売は大きくステップアップした。今年度は、引き続き同国での販売を強化したほか、「幸せカタラーナ」の抹茶タイプ、ロースweetタイプ、そして「幸せ生チョコレート」のパッケージも海外用を作成し、台湾、タイの商談会に参加した。

「幸せ生チョコレート」の英語版パッケージは、既存の国内販売用パッケージに英語コピーのシールを貼付するだけ、と簡易的だが効果は十分。シンガポール高島屋で開催された催事では、全商品で合計約20,000シンガポールドル(≒160万円)の売上を記録した。中には、数万円分も購入する客や、日本旅行中に食べたことがあるというリピーター客などもいた。

食品は、食べてみてもらわなければ、何も始まらない。その味を気に入ってくれる人に出会うまで地道な努力が必要だった。さらに海外となると、国内とは事情がまったく違うため、現地を訪れて文化や慣習を学ぶことも重要となる。輸出に関わる規制や手続きなど販売に至るまでには課題も多いが、よねたやは挑戦することを諦めず、チャンスを掴んだ。

よねたやがスイーツを売る理由

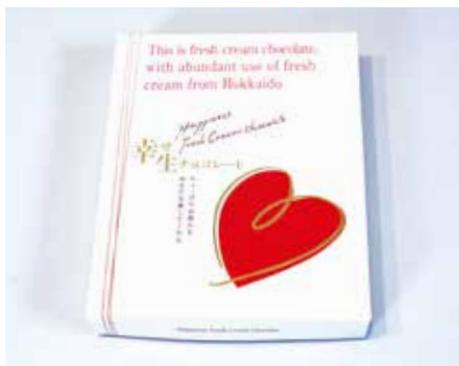
就労継続支援A型事業所として認定され、障がい者雇用によりカタラーナ等を製造してきた。以前の工場は狭く、需要があっても生産量を増やせず、働きたい障がい者の方がたくさんいても雇用することができなかった。現在の社屋に移転し、工場も大きくなったため生産量も雇用も増加した。海外に販路を拡大する理由について、社長の米田氏は語る。「需要が増えれば、雇用も増やせる。働きたいと言ってくれる障がい者の方々をできるだけ多く採用するためです」

行かなければチャンスも得られない

海外への販路拡大は、渡航費など、多額の費用がかかり、自社の資本力ではあまりにもハードルが高い挑戦です。行政が補助金という形で輸出事業を後押ししてくれることは、すごくありがたいと思っています。



代表取締役
米田 靖英



▲英語表記を貼付した「幸せ生チョコレート」



▲購入客の列ができたシンガポール高島屋での催事



▲「幸せカタラーナ」抹茶タイプ

1 目的

札幌市内の中小企業が、自社の経営課題の解決に向けた取り組みにおいて、ITの利活用を行うために発生する費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

札幌市内に本社を有する中小企業者（個人含む）、企業グループ、その他法人
※ただし、IT産業を主たる事業として営む会社及び個人は除きます。

3 補助対象事業

自社の経営課題（自社の商品やサービスの高付加価値化を図る、更なる販路を拡大する、あるいは、業務効率化を図るために自社業務を改善する等）を解決するために、ITの利活用を行う取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額200万円

5 補助件数

5件（予算1,000万円の範囲内で実施）

※上位5件の補助金額が予算上限に満たなかったことから本年度は7件採択

（平成30年度採択案件）

- ・各システムのデータを統合して経営情報の見える化、作業負担の軽減、経営情報の蓄積を図る取組（株式会社アイチフーズ）
- ・創薬基盤のための化合物構造式自動発生プログラムの構築（株式会社スカイシーファーマ）
- ・複数店舗展開に対応した在庫管理システム（株式会社ハッピーツリー・アンド・カンパニー）
- ・音声認識入力による車いす受発注管理システム（有限会社ふくもり）
- ・アンケート業務用のデータベース及びRPAの構築（株式会社マルシェ研究所）
- ・バルブ整備報告書作成システム構築事業（ワコオ工業株式会社）
- ・輸出・発注・在庫管理システムの構築事業（株式会社Wakka Japan）

6 補助対象経費

本事業実施に係る市内中小IT企業者^{※1}との間で発生する以下の経費

■ハードウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア購入費及び使用料 ■ソフトウェア開発委託費

※1 札幌市内に本社を有し、IT産業を事業としている中小企業者

7 募集期間

平成30年4月23日～7月27日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

インタークロス・クリエイティブ・センター内 エレクトロニクスセンター サテライトオフィス

TEL:011-814-5021 FAX:011-814-5041 URL:http://www.sec.or.jp

モス物流プランニング株式会社

- 所在地／札幌市豊平区月寒東1条20丁目4-19
- TEL／011-857-1000 ●FAX／011-857-5000
- 代表者／代表取締役社長 森 正廣
- 設立／2004(平成16)年4月28日 ●従業員数／71名
- URL／http://mos-sapporo.com

状況に合わせた最適なプランで高品質な輸送を提供。もっと!大きく!成長しよう!(MOS)をコンセプトに、社員のスキルアップや福利厚生にも注力し、人員不足が深刻な運送業であるにも関わらず、ドライバーが増え続けている人気企業である。

タイヤ保管管理システム(webシステム版) ～業界内で話題の、ありそうでなかったサービス～

鳴りやむことのないFAX受信音にサヨウナラ

物流会社であり、運搬車両・ドライバー・倉庫が揃っていたことから、タイヤ保管サービスを開始し、約2,000台分を取り扱っていた。依頼主は、主にカーディーラーとガソリンスタンドで、春は、夏タイヤを配送して冬タイヤを集荷し、秋は、冬タイヤを配送して夏タイヤを集荷する。1台の車両につき年4回の輸送が必要で、その手続きをすべてFAXで行っていた。つまり、年間で2,000台×4回=8,000回の手続きがあり、そのFAX通信にかかるランニングコストのほか、相当な時間と人手も要していた。

そこで、集荷・配送の受付を専用Webサイトで行うクラウドシステムを開発。クライアントにはIDを付与し、各自でパスワードを設定してもらう。PCだけでなくスマホからも操作できるので、ディーラーの営業担当者が隙間時間に受付できることもあり、非常に好評だ。Web受付の利便性が口コミで広まり、契約数は期待を大きく上回る約6,000台分にまで増加。以前はFAX業務に従事していたスタッフも、現在は輸送を担当できるので、依頼が増加しても十分に対応できている。午前11時までには受付すれば当日中の輸送も可能にするなど、システムに依存することなく、サービス向上にも常に力を入れている。

チャレンジ精神が盲点を突く

システム構築には難解な専門用語が付き物で、作り手との意思疎通には多くの苦労もあったが、改良や機能の追加なども行い、業界全体が必要としていたシステムが完成。稼働後も、シーズン毎にクライアントからヒアリングし、自社の反省点と併せて常に改善を行っている。

システム化によりタイヤ保管サービスが急成長していることもあり、今後は、運営拠点を増やすことも検討されている。同業者から「システム自体をリースしたい」との問い合わせもあり、予想外な形で新たな利益を生み出しそうだ。

タイヤ交換は雪国の文化、 タイヤは大切にお預かりします

業務の効率化に不可欠なため、補助事業に採択されなくても開発することになっていましたが、コストが気がかりでした。補助金のおかげで持ち出し費用を削減できたので、妥協することなく、理想通りのシステムが完成しました。



営業部長
近谷 典博



▲システムの管理者用画面



▲クライアント用の操作マニュアル



▲整然と保管されているタイヤ

平成30年度 IT産業海外展開支援事業 ローカライズ支援補助金

1 目的

札幌市のIT産業の活性化と持続可能な成長を促進するため、海外ニーズに対応するITを活用した製品・サービスの開発を支援し、海外市場への販路拡大を推進することを目的とする。

2 補助対象者

札幌市内に本社又は商業登記上の本店を有する中小企業者(個人含む)

3 補助対象事業

補助金の交付の対象となる事業は、札幌のIT産業の海外における販売拡大を図るため、IT製品のローカライズを行って海外に流通させる事業とする。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額100万円

5 補助件数

5件(予算500万円の範囲内で実施)
(平成30年度採択案件)

- ・「食品製造加工業向けシステム」アジア対応(株式会社サンクレエ)
- ・クラウドEDIシステムのローカライズ及び多言語化開発の実施(株式会社イークラフトマン)
- ・店舗管理クラウドサービスWinBoard.bizベトナムローカライズ(株式会社イー・カムトゥルー)
- ・VRライブ・コミュニケーションサービス「バーチャルキャスト」ローカライズ(株式会社バーチャルキャスト)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 調査費 ■機器費 ■海外マーケティング費 ■旅費 ■外注費 ■人件費^{※1}
- その他市長が適当と認める経費

※1 補助対象経費合計額の1/2未満までを補助対象として認める。
また、本事業に直接関与する従業員の直接作業時間に対するものに限る。

7 募集期間

【1次募集】平成30年4月27日～5月25日

【2次募集】平成30年7月2日～8月3日

8 申請の受付・問い合わせ

札幌市経済観光局国際経済戦略室 IT・クリエイティブ産業担当課
〒060-8611 札幌市中央区北1西2丁目 札幌市役所15階
電話:011-211-2379 FAX:011-218-5130 E-Mail:it.contents@city.sapporo.jp

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

ちょっと間違った未来で、幸せな人を増やす

株式会社バーチャルキャスト

- 所在地／札幌市中央区北1条東4丁目1-1 サッポロファクトリー1条館
- TEL／011-271-0708
- 代表者／代表取締役社長 松井 健太郎
- 設立／2018年(平成30年)7月27日 ●従業員数／70名
- URL／<https://virtualcast.jp>

ゲームやアプリを開発する株式会社インフィニットループとインターネット上に様々なデジタルコンテンツを展開する株式会社ドワンゴの共同出資により設立。バーチャルキャストを始めとするVRシステムの普及を目指す。

Vtuber向けの動画作成、コミュニケーションツールの開発、運営 ～Cool Japanの流れに乗って変身願望を刺激～

好きなキャラクターに変身!

社名にもなっているバーチャルキャストとは、自分のバーチャルキャラクター(以下、アバター)が出演するライブ番組をインターネット配信し、視聴者や他のアバターと交流するシステム。ユーザーは、バーチャルキャストと、VR(仮想現実)の舞台を作り出すのに必要なSTEAM®VRをPCにダウンロードし、ヘッド用とハンド用のVR端末を装着する。アイドル系や動物など自分の好みで生み出したアバターのトークや動作は、すべてユーザーの言動通りとなる。このように、VRを使用して動画を制作・配信する人々をVtuber(ブイチューバー)と呼び、2年ほど前に日本で誕生した。現実の自分ではなり得ないキャラクターになれ、変身願望を満たすことから、人気急上昇中である。

ネット文化のユニーク性を伝える

バーチャルキャストは、特にアジア圏での注目が高まっていることから、中国語と英語のインターフェイス(操作画面など)を公開した。

多言語化する際の一番のハードルは「ネットスラング」。例えば、バーチャルキャストでは、他のアバターの番組に乱入することを「凸する」といい、ユーザー交流を促進する魅力の一つで、「突撃する」の「突」→「凸」の造語である。漢字ならではの言葉遊びである

ため、英語で表現するのは難しい。単なる取扱説明書の翻訳(ローカライズ)とは異なり、ネット世界の日本文化をカルチャライズする(その国の文化や言語背景を取り入れ、受け入れられやすい様式に調整する)ことが、世界進出の鍵となった。

インターフェイスのカルチャライズにより、国内だけでなく、中国語圏や英語圏でのダウンロード数大幅UPを狙う。将来、技術の進歩により、バーチャルな世界での同時通訳が可能になれば、自宅にいながら世界中のアバターと交流できる日が来るかもしれない。

実現不可能な“憧れ”、 仮想世界で叶えよう!

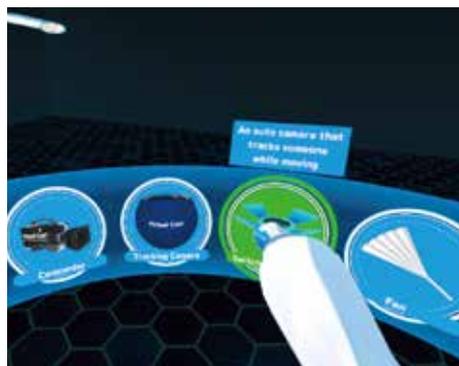
多言語インターフェイスは、バーチャルキャストの営業強化に必要不可欠ですが、なかなか手を付けられずにいました。補助金は、コスト負担を軽減してくれただけでなく、任務遂行の後押しもしてくれました。



取締役CVO
山口 直樹



▲“リアル”な女の子が歌う→VRのステージでアバターも歌う



▲英語版のインターフェイス

平成30年度 ITビジネス創出支援事業

1 目的

札幌市内の中小企業が、IT技術を活用し、イノベティブな事業創出（新製品や新サービス等の開発や事業構築など）や、新たな市場創出を行うことを目指す取組に対する費用の一部を補助することにより、札幌市のIT産業の活性化と持続可能な成長を促進させ、IT産業に携わる分野の人材と組織の育成に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

札幌市内に本社を有し、且つ開発拠点が市内にあるIT中小企業者（個人含む）、企業グループ、その他法人
※ただし、補助対象事業に複数人（最低2名）に従事させることができること。

3 補助対象事業

ITを活用した新製品や新サービスの開発による事業構築及び事業に係る従事者の人材育成（人材育成の指標は、独立行政法人情報処理推進機構が定めるIT融合（イノベーション）人材スキル指標、成熟度モデルなどを活用する）にも視点をおき、支援事業者（メンター）の助言に基づき、プロトタイプの実証を繰り返し、新たな事業創出を目的とする取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額300万円

5 補助件数

3件（予算900万円の範囲内で実施）

（平成30年度採択案件）

- ・クラウド上での簡単な操作で独自アプリを開発できるプラットフォーム「サスケWorks」の開発（株式会社インターパーク）
- ・採用365機能強化及び営業強化事業（株式会社プラグイン）
- ・安心に見える化する介護支援システム「smartNexus®care」の研究開発（株式会社サンクレエ）

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 報償費 ■ 機器費・原材料・消耗品費 ■ 機器リース費 ■ 旅費・交通費 ■ 通信・運搬費
- 人件費※1 ■ 施設及び設備等賃借料 ■ 外注費 ■ 広告宣伝費 ■ その他市長が適当と認める経費

※1 補助対象経費合計額の2/3以下までを補助対象として認める。

また、本事業に直接関与する従業員の直接作業時間に対するものに限る。

7 募集期間

平成30年6月18日～8月10日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

インタークロス・クリエイティブ・センター内 エレクトロニクスセンター サテライトオフィス

TEL:011-814-5021 FAX:011-814-5041 URL:http://www.sec.or.jp

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

顧客にピッタリ、満足度の高いシステムを

株式会社プラグイン

- 所在地／札幌市中央区南1条西11丁目327-8 山口ビル8F
- TEL／011-290-3400 ●FAX／011-290-3401
- 代表者／代表取締役 松場 耕太郎
- 設立／2007(平成19)年8月8日 ●従業員数／6名
- URL／<https://plugins.co.jp>

業務システムの受託生産、Webサイトの制作、映像配信・解析などを行い、スタッフは全員がシステムエンジニア。顧客とのつながりを大切に丁寧なヒアリングや打合せを経て、品質の高いシステムを開発しており、道外にも顧客多数。

採用365機能強化及び営業強化事業 ～作るだけでなく、売り方も鍛える～

求人サイトのレスポンスを一元管理

人材派遣会社からの要望がきっかけで開発された「採用365」は、求人業務を効率化するシステム。人材派遣業者も、必要な人材を求人サイトで募集することがある。一度に複数の求人サイトを利用すると、求職者関連の情報を確認する際、一つひとつのサイトにログインしなければならない。利用するサイトが多かったり、求人件数が多かったりすると、確認作業にかなりの手間や時間がかかる。「採用365」は、各サイトに寄せられた情報を自動的に吸い上げ、分野ごとに統合して一元管理する。面接日時が1つのカレンダーにまとめられるなど、採用担当者が求める細かな要望を具現化し、求人情報公開から採用決定まで、迅速な流れを生み出した。対応が早くなることで、求職者からの評価も高まる。また、集約したデータを解析し、求人サイトごとの費用対効果も検証できるので、人材派遣業だけでなく、求人を行うあらゆる企業にとって頼りがいのあるシステムだ。

初挑戦、「営業する」ということ

既に利用している顧客から高評価を得ているこのシステムは、これまで受託開発を主体としてきたプラグインにとって、初めての「自社商品」でもある。ユーザーを多く獲得できれば安定した収入源となるた

め、販売を強化したいと思ったが営業ノウハウがなかった。そこで、今回の補助事業から派遣された支援事業者(メンター)に相談し、見込客の発掘、アプローチの仕方など、売込みに必要な多くのことを学んだ。第三者の視点で商品や事業全体を捉えたアドバイスには、発見が多かったという。

同社では今回の経験を活かして、自社商品の販売と新商品の開発に力を入れる予定だ。「何」が「どんな人」に必要とされているのかをしっかりとマーケティングすることは、費用も時間もかかるが、「売れる商品」への近道である。

ニーズを捉えたサービスを追求したい

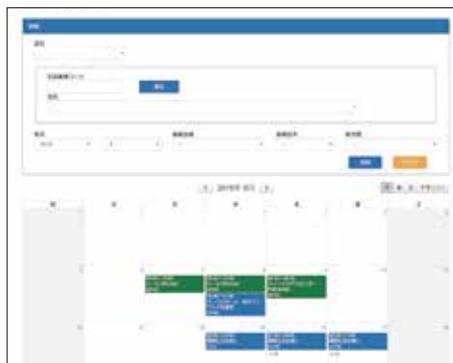
これまで注力したことがなかった「営業」に挑戦するにあたり、メンターからいろいろな助言を得られ、システムの機能強化やサービス説明会開催などにも積極的に取り組むことができ、非常に有意義な経験となりました。



代表取締役
松場 耕太郎



▲社内でシステム開発を行っている



▲スケジュール管理しやすい面接カレンダー



▲広告の費用対効果を分析

平成30年度 先進的IT技術実証事業

1 目的

札幌市における先進的なIT技術（IoT、ビッグデータ、AIなど）の社会実装の促進や、と様々な産業分野で抱えている業界特有の課題解決などを通じ、札幌市の産業振興を促進させるため、市内の中小企業や様々な団体等が、将来的にビジネス化を視野に入れた先進的なIT技術を活用した実証的な事業を実施する際に必要とする費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、本市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

札幌市内に本社を有するIT中小企業者（個人含む）及び1以上の市内中小IT企業者を含んだコンソーシアム。
※コンソーシアムは、それ自身が法人格を有することを要しない。

3 補助対象事業

自社の経営課題を解決することだけにとどまらない、様々な産業分野で抱えている慢性的な課題を打破するような画期的な事業や、独自性・先進性のある事業など、将来的（概ね3年以内）に札幌市の産業振興に寄与するビジネスとして期待できる事業において、先進的なIT技術を活用し実現を図ろうとする実証的な取組であり、且つ、業界及び社会に対する波及効果が高い取組。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額500万円

5 補助件数

2件（予算1,000万円の範囲内で実施）

（平成30年度採択案件）

・スマートシティ札幌を実現するIoTとAIを活用した宅配・居住の新サービスの実証事業

（株式会社イークラフトマン）

・MOTENAZ（モテナス）サービスの開発【地域IoT×インバウンド観光による地方創生】（エコモット株式会社）

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

■報償費 ■機器費・原材料・消耗品費 ■機器リース費 ■旅費・交通費 ■通信・運搬費

■人件費^{※1} ■施設及び設備等賃借料 ■外注費 ■広告宣伝費 ■その他市長が適当と認める経費

※1 補助対象経費合計額の2/3以下までを補助対象として認める。

また、本事業に直接関与する従業員の直接作業時間に対するものに限る。

7 募集期間

【1次募集】平成30年5月14日～7月6日

【2次募集】平成30年7月30日～8月31日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

インタークロス・クリエイティブ・センター内 エレクトロニクスセンター サテライトオフィス

TEL:011-814-5021 FAX:011-814-5041 URL:http://www.sec.or.jp

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

エコモット株式会社

- 所在地／札幌市中央区北1条東2丁目5-2 札幌泉第1ビル 1階
- TEL／011-558-6600 ●FAX／011-558-6603
- 代表者／代表取締役 入澤 拓也
- 設立／2007年(平成19年)2月19日 ●従業員数／95名
- URL／<https://www.ecomott.co.jp>

カメラやセンサーなどの各種デバイスとIoTで、遠隔地から必要なデータを収集・解析して有効活用するサービスを提供。工事現場の安全管理、土砂崩れなどの自然災害への対策、車両の運行状況確認など、幅広い分野で活用されている。

MOTENAZ(モテナス)サービスの開発 【地域IoT×インバウンド観光による地方創生】

～万が一の時も迅速に情報提供、北海道の旅をもっと安心に～

災害時にGPSで安否確認を

2018年9月6日の胆振東部地震発生後、札幌市内では、避難場所もわからず行き場を失った、数千人の外国人観光客がいたと考えられている。災害時の情報入手は外国人には難しいうえ、旅行者の安否確認自体に適切な手段がない。元々GPSを活用して車両の現在位置や移動経路を確認できるサービスを提供していたエコモットでは、このシステムを応用して、一時的・簡易的に位置情報を取得できる端末を開発。このハンディ位置情報端末は手のひらに収まるサイズ。使用法は、必要な時に利用者がボタンを押して管理者に現在地を知らせるか、非常時に管理者側の操作で利用者の位置を確認するかの主に2通り。迷子になったツアー客が添乗員に見つけてもらいたい場合も、災害時に旅行会社が顧客を探す場合にも有用である。また、山での遭難、登下校中の子どもの見守りなど、観光以外の分野でも活躍するだろう。スマホとは違い、位置情報だけを保持するので、プライバシー侵害の心配も少ない。

訴求力と地域貢献度を高めるWebサービス

ハンディ位置情報端末には、クラウドサービスMOTENAZのQRコード(<https://www.motenz.com>)が付帯している。このサイトにアクセスすると、日

本語を含む14言語で、災害支援情報、ローカルニュース、歴史・文化、観光情報などを閲覧できる。北海道庁とのタイアップ事業による、道庁発信のSNSなどが掲載されているほか、道内179市町村のさまざまな情報を網羅。有名な観光地以外の市町村にも、インバウンドの興味を喚起したいとの思いから、日本語検索不要で、目的地に関するインスタグラムを見られる工夫もされている。

端末もWebサイトも完成したばかりだが、多くの可能性を秘めたこのシステムは多方面から注目されている。今後、旅行代理店、レンタカー会社、ホテルなどで利用を広げる予定だ。

持っている技術で地域の役に立ちたい

Webサイトの構築や端末製造にかかる経済的負担は莫大なので、補助金が無ければ、今回の事業化は難しかったと思います。また、補助事業に採択されたことで、信頼性が高まり、他社との協業もスムーズに話が進みました。



開発本部製品開発部部長 細川 博之



▲ハンディ位置情報端末とMOTENAZのコンテンツ



▲システムの概要



▲MOTENAZの可能性は多岐にわたる

平成30年度 映像制作助成事業 (海外プロモーション映像活用事業助成金)

1 目的

海外に向け、映像を活用して商品の販路拡大を実践する札幌市内企業等の取組に対し、その経費の一部を助成することにより、映像関連産業以外の産業の映像活用及び海外への販路拡大を促進することを目的とする。

2 補助対象者

- ・札幌市内企業等
- ・札幌市内企業等を代表として構成したコンソーシアム

3 補助対象事業

札幌市内の映像制作事業者等を活用して、海外に向けた商品やサービスのプロモーションに資する映像コンテンツの制作を行うもののうち、放送や通信等の伝達手段を用いて、海外の一般消費者向けに映像を発信して商品の販路拡大を目指すとともに、連動して、その実施効果を高めるために観光客誘致等を実践する取組、または海外バイヤー等に対して自社商材や技術、設備等を紹介する映像の制作など、海外企業との商談や販売促進活動の効率化に資する取組。

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額300万円

5 補助件数

5件

(平成30年度採択案件)

- ・透水性・浸透性コンクリート技術及び製品の海外展開における紹介動画の作成(北海道ポラコン株式会社)
- ・Coroku化粧品のブランド力向上と販路拡大のためのプロモーション映像制作(株式会社小六)
- ・ロシアにおける事業パートナー拡大のための映像制作(株式会社伸和ホールディングス)
- ・「ニードルレス・インジェクター」技術および製品の海外展開プロモーション映像制作(株式会社ASCe)
- ・海外向け定山溪ファームPR映像制作事業(株式会社ドラゴンツアー)

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 業務委託費(映像コンテンツの制作及び放映・公開のために支払われる施設使用料、撮影許可手数料、人件費、機材費、車両費、編集費など)
- その他適当と認められる経費

7 募集期間

- 【1回目】平成30年5月14日 【2回目】平成30年7月4日
【3回目】平成30年9月19日 【4回目】平成30年12月11日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 映像産業振興課映像産業振興係
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1 札幌市産業振興センター
TEL:011-817-5711 URL:<https://www.screensapporo.jp/subsidy/>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

地中の保水技術で、世界中の人々を水害から守りたい

北海道ポラコン株式会社

- 所在地／札幌市中央区南4条西6丁目8 晴ばれビル7階
- TEL／011-251-4566 ●FAX／011-251-4689
- 代表者／代表取締役社長 中島 康成
- 設立／1973(昭和48)年6月6日 ●従業員数／22名
- URL／<http://www.poracon.jp>

透水性・浸透性コンクリートの設計から施工までをワンストップで行う。アスファルトに覆われた都市の地中の水分バランスを最適化し、水循環を自然な状態に近づけることで、より安全で快適な街づくりを提案する。

透水性・浸透性コンクリート(ポーラスコンクリート)技術 および製品の海外展開における紹介動画の作成 ～アジア圏に広めたい土木技術の説明を動画でわかりやすく～

雨水を自然に帰し、土にうるおいを

ポーラスとは「多孔性・多孔質」という意味。ポーラスコンクリートは、無数の孔(小さな穴)から水が徐々に染み出すことが特徴である。道路の下に埋設されている雨水管を例に挙げると、通常のコンクリートやプラスチック製の雨水管の場合、集めた雨水をすべてタンクに送水するか、河川に一気に排水する。ポーラスコンクリートを使用した浸透工法の場合、雨水の一部は管から染み出し地中に吸収される。つまり、土の上に雨が降ったときと類似した水循環を作りだせる。アスファルトに覆われた土壌でも地中に一定の水分を保てるので、洪水や地盤沈下の予防策となる。

伝えることで、チャンスは広がる

10年ほど前から海外進出を試み、洪水被害が多発する中国や東南アジアの国々にポーラスコンクリートを売り込みたいと思っていたが、仕組みや必要性を理解してもらうことが難しく、パワーポイントや紙資料での説明に限界を感じていた。

そこで、技術や会社のビジョンなどをまとめた7分程度の動画を制作。英語版とインドネシア語版を海外でのプレゼンに活用した。モーショングラフィックスの使用や、オリジナルキャラクターの登場など、わかりやす

いだけでなく、興味を喚起する工夫も施されている。

撮影に多くの社員が参加した結果、全社員に会社の取組みを実感してもらう機会にもなり、自分たちが作った製品が海外の人々の役に立つということに、誇りも感じてもらえたようだ。

動画を使ったプレゼンにより、インドネシアでの事業展開につながった。今後は、WebサイトやSNS上での公開、中国語版やショートバージョンなどの制作も予定されており、海外での認知度も徐々に高まるであろう。

ポーラスコンクリートと北海道ポラコンがよくわかる動画はこちら→YouTube「北海道ポラコン」で検索。

会社の未来は、世界にある

以前から動画を制作したいと思っていましたが、予想以上に費用がかかるとわかり、長い間躊躇していました。補助金を受け、満足できる質を追求できたので、撮影、グラフィック、ナレーションなど、すべて100点満点の仕上がりです。



代表取締役社長
中島 康成



▲ポーラスコンクリート製品



▲栗山工場での撮影風景



▲動画を使ったインドネシアでのプレゼン

平成30年度 コンテンツ活用促進事業

1 目的

北海道内の中小企業が、自社の経営課題の解決に向けた取り組みにおいて、札幌市内のクリエイターと連携しながらコンテンツ(デザイン、映像、音楽、キャラクターなど)活用を行うために発生する費用の一部を補助することにより、市内中小企業の競争力及び成長性を高め、札幌市経済の活性化に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

北海道内に本社を有する中小企業及び企業グループ等。ただし、コンテンツ等の事業を主に営む中小企業者等を除く。

3 補助対象事業

自社の経営課題(自社の商品やサービスの高付加価値化を図る、更なる販路を拡大する、あるいは、業務効率化を図るために自社業務を改善する等)を解決するために、コンテンツの利活用を行う取り組み。

4 補助金額

補助対象経費の1/2以内、上限額100万円

5 補助件数

4件程度(予算400万円の範囲内で実施)
(平成30年度採択案件)

- ・クリエイティブ映像を用いた動画メディア戦略におけるブランド周知(株式会社マツオ)
- ・キャラクターを使ったブランディング事業(北海道共伸特機株式会社)
- ・北海道ソウルフード[道食]プロモーション:ラム肉編(K・N・T株式会社)
- ・販路拡大の為の会社案内及び会社ホームページの更新(株式会社ハイテックシステム)

6 補助対象経費

補助対象者が本事業実施にあたり、札幌市内でコンテンツ等の事業を営む中小企業者との間で発生する経費等。ただし、補助対象経費の75%以上がクリエイターに支払われる直接人件費であること。

7 募集期間

平成30年5月31日～8月31日

8 申請の受付・問い合わせ

一般財団法人さっぽろ産業振興財団 インタークロス・クリエイティブ・センター
〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1
TEL:011-817-8911 URL:<https://www.icc-jp.com>

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

道民に愛される味で売上No.1

北日本フード株式会社

- 所在地／札幌市西区八軒7条西11丁目1-48
- TEL／011-613-8141 ●FAX／011-631-9372
- 代表者／代表取締役社長 酒井 信男
- 設立／1981(昭和56)年5月29日 ●従業員数／35名
- URL／http://www.kitanihonfood.jp

酸味が苦手な北海道民の味覚を研究し、酸っぱくなく、甘味があり旨味たっぷりのキムチを開発し、販売シェアは断トツ1位!仕入れる野菜や製法にこだわり、毎年約20種もの新商品を発売するなど、漬物界をリードする。

音楽コンテンツを活用した『スーパー極上キムチ』 ブランディングPR事業 ～親から子へ、食の伝播にキムチを～

あの懐かしのCMをリメイクして復活

「スーパー極上キムチ」というテレビCMを覚えている方も多いだろう。北日本フードの「スーパー極上キムチ」は販売開始以来、道内のキムチ売上1位。他社の追随を許さない確固たる地位を築いた。しかし、最近では、客層の中心が50～60代となり、若年世代での認知度が低いことに警戒感が湧いてきた。子どもの頃に実家で食べていた商品を、大人になっても食べ続ける傾向があるため、20代の親が購入しなければ、その子世代にも購入されないことになり、将来の業績に大きく影響する可能性がある。

そこで、小さな子どものいる家庭にPRするため、かつての人気CMをリメイクして、リリースすることに。地元の小学1年生3名が、アップテンポなリズムに乗せて軽快なダンスを見せるCM「スーゴクキー」は、2017年3月3日から放送開始。その後、同商品の売上げは順調に伸びている。また、商品パッケージのQRコードからアクセスして、同CMのロングバージョンPVを視聴している人も多く、かなりの反響である。

CM制作と同時にリニューアルしたWebサイトは、スマホで商品を探しやすいことに重点を置いた。簡単な情報と盛付け画像も掲載し、商品内容がわかりやすくなったため、スーパーなどのバイヤーからも好評のようだ。

その家その家で違う味も大切に

発酵食品ブームに乗って、一時落ち込んだキムチの人気は復活傾向にあるが、それに甘んじる姿勢は同社にはない。漬物が、食文化の礎として家庭の食卓にあり続けることを願って、数年前から漬物教室を開催している。受講者は抽選で決定するほど人気だ。住環境の変化などから、自宅で漬物をつくる人が減り、家庭の味が受け継がれることも少なくなった。衰退しつつある食文化の再興が、食品業界を発展させるのかもしれない。

乳酸菌発酵の本物の漬物、 文化として継承したい

キムチをもう一度盛り上げたい!と願って、事業を“再スタート”というタイミングで補助金を活用できたので、WebサイトとCMを一斉にリニューアルすることができました。完成したコンテンツへの反響にも手応えを感じています。



常務取締役
営業副本部長
酒井 秀彰



▲道内のほとんどのスーパーで販売されている人気商品



▲収録後、関係者全員で記念撮影



▲CMやPVも見られる北日本フードHP

平成30年度 テレワーク普及促進事業

1 目的

在宅勤務をはじめとする多様な勤務形態の実現に向けて、職場環境の整備に必要な取組を行う中小企業等に対し、その取組に係る経費を補助することにより、中小企業等の職場環境の改善を図ることで、女性をはじめとする市民の有業率の向上や市民のワーク・ライフ・バランスの向上に寄与することを目的としています。

2 補助対象者

市内で事業を営む中小企業等(NPO法人、士業法人等を含みます。)

3 補助対象事業

- ・補助対象者が実施する在宅勤務、モバイルワーク等を可能とする情報通信機器等の導入により、多様な勤務形態の実現のための新たな環境整備及び既存環境の拡充を図る取組が対象です。
- ・在宅勤務にあつては月1日以上、モバイルワーク等にあつては週1日以上取り組むものとします。

4 補助金額

補助対象経費の2/3以内、上限額40万円

5 補助件数

- 11件
(平成30年度採択案件)
- ・テレワークからはじまる働き方改革(イネスホーム株式会社)
- ほか10件

6 補助対象経費

本事業実施に係る以下の経費

- 機器購入費 : パソコン、タブレット等の端末、wifiルーター、webカメラなど
- システム構築費 : テレワークシステム(勤怠管理システム、ファイル共有システムなど)
構築に係る費用、関連ソフト利用料(テレワークに必要なアプリケーションなど)
- コンサル委託費 : テレワーク導入支援や就業規則の作成・改定など専門家への相談費・作成手数料など

7 募集期間

平成30年4月16日～11月9日

8 申請の受付・問い合わせ

札幌市経済観光局産業振興部経済企画課
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL:011-211-2352 URL:<http://www.city.sapporo.jp/keizai/telework/hojyokin.html>

イネスホーム株式会社

- 所在地／札幌市北区新琴似町795-23
- TEL／011-763-1231 ●FAX／011-764-3269
- 代表者／代表取締役 塚本 誠
- 設立／1976(昭和51)年7月5日 ●従業員数／14名
- URL／<http://ineshome.jp>

木造注文住宅の設計から施工、細部にこだわったインテリア造作まで、自社で一貫建築。コンセプトは「ちょっとプラスの家づくり」。「ちょっと」のこだわりを大切に、「ちょっと」のアイデアをプラスする家づくりを提案する。

テレワークからはじまる働き方改革 ～時代の流れに沿った働き方と暮らし方～

「仕事場」の選択肢を広げる

女性の建築士とインテリア・コーディネーターを中心とする家づくりが人気のイネスホーム。これまでは、結婚や出産を機に退職してしまう女性スタッフもおり、人材維持に課題があった。そこで、就業規則を改定し、育休を取得しやすくするなど、どの段階のライフステージにいても働き続けることができる職場づくりが始まった。さまざまな取組みを検討している際に、「テレワーク」が浮上した。

そこで、インテリア・コーディネーターと広報兼営業担当の女性2名にノートPCを貸与して、自宅や外出先も仕事場になるようにした。広報担当スタッフは、毎週末、モデルハウスの展示会場で見学者の案内をしている。見学者が途切れた隙間時間にPCを開き、メールマガジンの作成やSNSの発信など、広報業務を進める。これは、いわゆるモバイルワーク。以前はPCやネット環境が整備されていなかったため、社内ではできなかった仕事が、現在ではモデルハウスや外回り中でもできるようになっている。

他にも、CADのクラウドサービスを利用したり、建築現場の情報をクラウド上で共有するソフトを導入したりと、業務全般のIT改革を進め、社外時間の有効活用と移動時間の削減を行った結果、長時間労働の解消につながった。

社会が求める暮らし方を

同社では、就業規則の改定によって、休暇日数が大幅に増加。労働力不足で新規採用が難しいなか、仕事量を減らすことなく休暇取得を促すには、業務の効率化が不可欠である。今後は、在宅勤務・モバイルワークの範囲を拡大させ、社全体で労働時間の短縮に取り組む予定だ。イネスホームの客層は主に30代前半の若い家族。休暇や家族との時間を大切にする世代が理想とする家を建築するために、まずは自分たちがそのような暮らし方を実践することが重要視されている。

お客様の「家」が 幸せ溢れる空間になることを願って

たまたま参加した経営者の集まりの中で、この補助金を知りました。申請書の準備期間が1日しかありませんでしたが、何とか期限までに申請して、利用することができました。上手く補助金情報を入手して、機会があればまた活用したいと思います。



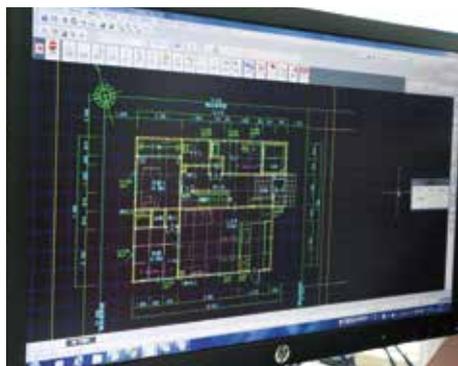
代表取締役
塚本 誠



▲建て主と打合せを行う部屋にはキッズスペースも



▲お洒落なカフェのようなモデルハウスでモバイルワーク



▲どこからでもアクセスできるよう、CADもクラウド化

融資制度

問い合わせ先 商業・金融支援課 TEL 011-211-2372

《一般中小企業振興資金》

～通常の運転資金や設備資金、経営安定化を図るなどの目的でご利用できる資金です～

- 産業振興資金(融資限度額:2億円 融資利率:年2.0%以内)
中小企業者等が対象
 - 短期サポート特別枠(融資限度額:5,000万円 融資利率:年1.7%以内)
融資期間1年以内の運転資金を必要とする中小企業者等が対象
- 札幌みらい資金(融資限度額:2億円 融資利率:年1.5%以内)
札幌市経済をけん引する5つの重点分野である「観光」「食」「環境(エネルギー)」「健康福祉・医療」「IT・クリエイティブ」に関連する、又は「女性の活躍推進等」に取り組む中小企業者等が対象
- 小規模事業資金(融資限度額:1,500万円 融資利率:年1.0%以内)
小規模事業者等が対象
- 小口資金(融資限度額:2,000万円 融資利率:年1.3%以内)
信用保証協会の「小口零細企業保証制度」を利用する小規模企業者等が対象
- 景気対策支援資金
(融資限度額:5,000万円 融資利率:5年以内/年1.3%以内 10年以内/年1.5%以内)
信用保証協会の「セーフティネット保証制度」を利用する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の4分の1を補給
- 経営力強化支援資金(融資限度額:1億円 融資利率:年1.3%以内)
信用保証協会の「経営力強化保証制度」を利用する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の2分の1を補給

《特別資金》

～創業、新分野・海外への進出、大型の設備投資などの目的でご利用できる資金です～

- 創業・雇用創出支援資金(融資限度額:5,000万円 融資利率:年1.1%以内)
次のいずれかに該当する中小企業者等への融資制度で、札幌市が信用保証料の4分の1を補給
 - (1) 市内で創業する者及び創業後5年未満の者
 - (2) 融資申請日前6か月以内に、新たに常用従業員を1名以上雇用した者
- 事業革新支援資金(融資限度額:2億円 融資利率:年1.1%以内)
次のいずれかに該当する中小企業者等が対象
 - (1) 新規性、技術性又は独創性を有する事業に取り組む者
 - (2) 成長の見込まれる新分野への進出を目指す者
 - (3) 商店街の活性化に資する事業に取り組む者
 - (4) 海外への販路拡大及び海外拠点の設置や拡張に取り組む者
 - (5) 事業承継に取り組む者
- 大型設備投資支援資金(融資限度額:5億円 融資利率:年1.1%以内)
札幌圏において設備投資額が5千万円以上の大型の施設等を設置若しくは増改築又は機械設備等の購入を行う中小企業者等が対象

※平成31年度事業詳細は、市ホームページなどで公開する公募要領等をご確認ください。

立地支援制度

問い合わせ先 立地促進・ものづくり産業課 TEL 011-211-2362

●札幌圏設備投資促進補助金

札幌市内に「試験・研究・開発施設」「工場」「物流施設」「データセンター」を新設、増設又は市内移転する事業者への補助制度

販路拡大支援制度

(食・バイオ・健康医療)

問い合わせ先 食・健康医療産業担当課 TEL 011-211-2392

●食品製造品質・衛生管理認証取得補助金

国内外での販路拡大等を目指して、食品の製造品質・衛生管理についての各種認証を取得する取組及び取得に向け社内体制構築を行う取組に対する経費の一部を補助

●サッポロ・ヘルスケアビジネス・サポートプログラム

ヘルスケアビジネスにおいて、市場ニーズを獲得し、事業の創出・成長を図ろうとする取組に対し、①ハンズオン(並走型)支援、②専門家相談支援、③市場ニーズ獲得支援と経費の一部を補助

●展示商談会・学会等参加支援

医療分野への参入、事業展開を検討するIT・ものづくり企業などを対象に、医療関連分野の展示商談会・学会への参加を支援 ※支援内容は出展先によって異なります。

研究開発支援制度

問い合わせ先 食・健康医療産業担当課 TEL 011-211-2392

●事業化支援補助金(札幌ライフサイエンス産業活性化事業)

「健康・医療分野」における産学共同研究に係る経費を補助

●研究シーズ発掘補助金(札幌タレント補助金)

「健康・医療分野」において、札幌圏の大学・研究機関等(民間含む)に所属する40歳以下の若手研究者が取り組む基礎的・先導的な研究に係る経費を補助

道内機関の支援制度も知りたい方は

●支援制度ナビ【公益財団法人北海道中小企業総合支援センター】

北海道内の企業・創業者向けの支援制度を紹介する情報検索システム

(URL: <http://www.hsc.or.jp/shiennavi/>)

発 行

札幌市経済観光局産業振興部
立地促進・ものづくり産業課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎15階

TEL 011-211-2362 FAX 011-218-5130



さっぽろ市
01-H01-19-71
31-1-29